



目次

- モニタリング活動報告
- 第8回油ヶ淵葦船学校課外授業が開催されました
- 水質パトロール隊 活動取材
- 挑戦！油ヶ淵クロスワード
- 連載 油ヶ淵のいきものたち⑩
- 浄化槽フォーラムが開催されました

渡り鳥の季節到来！
今年は何だけ飛んでくるのか楽しみだね♪



モニタリング活動報告（10、11月）

〓10月〓

〇風は微風。水門は開放。ボラのむれ遡上。【高浜水門（上流側）】
〇オタマシヤクシ発見。ジャンボタニシの卵多数。

〇いつもより透視度が高い。【上池左岸・流入農排】

〓11月〓

〇樋門開いており、油ヶ淵へ流入していた。（流入状態がよく見えた）

〇水生生物調査。孫と一緒におたまじゃくし35、ざりがに16、めだか3、どじょう2、やご2、すじえび7。水藻の中に居た。魚影はみあたらない。【（準）沢渡川】
〇カモの群れあっち、こっち20羽〓
30羽。湖面は少々波あり。【下池西岸・流入農排】

★寒くなってきましたが、懸命に生きていく生きものの姿がよく見かけられるようです。流域全体の透視度、CODの平均値は例年と変わりありません。

第8回油ヶ淵葦船学校

課外授業が開催されました

平成27年10月17日（土）、勤労青少年水上スポーツセンターで、油ヶ淵美化ネット主催の「第8回油ヶ淵葦船学校課外授業」が開催され、過去に製作した葦船の乗船会と、葦笛づくりや水質調査体験などの体験教室が開かれました。



→大きな葦船を4人で漕いでいます。息を合わせないと真っ直ぐ進みません。



↑社会貢献イベントの講演。みなさん先進的な研究に興味津々でした。

当日は明和小学校のイベントとも重なり、葦船乗船は大盛況。子どもたちは楽しそうにオールを漕いでいました。また、（公社）日本モーターボート選手会の社会貢献イベントも同時開催。田中秀樹先生によるウナギの人工種苗生産の研究に関する講演やウナギの放流等が実施され、油ヶ淵の環境やウナギ資源保護を考える機会となりました。

**Wわたなべたんけん隊
Peach**について紹介します！

水質パトロール隊事業
キャラクターかっぱとくん

「Wわたなべたんけん隊 Peach」は、小学生と中学生を含む家族や友人で構成されています。水質パトロール隊での活動は、今年で4年目になります。

平成27年度は、8月23日(日)に、武豊町にある石川の中流で、水質調査と生きもの観察を行っている様子を取材しました。前日は少し雨が降りましたが、当日は快晴で、とても暑かったです。

水質調査の結果は、CODの値が13 mg/L、透視度計の値が48.5 cmでした。生きもの観察では、うなぎやモクズガニなどをみる事ができ、子どもたちは喜んで撮影していました。



熱心に生き物調査をしています。



手作りの透視度計を使っています。

水質パトロール隊 活動取材



ゴーウィングスについて

紹介します！



分担して水質調査を行っています。



取材の最後に、記念撮影をしました！

「ゴーウィングス」は、小学生とその家族で構成されています。水質パトロール隊での活動は、こちらのグループも今年で4年目になります。

取材日は、8月27日(木)です。名古屋市緑区にある大高緑地公園の「花木園」という湿地にて、水質調査と生きもの観察を行いました。

水質調査は合計3地点で行い、CODやpH、透視度などの結果を記録しました。

生きもの観察ではアメリカザリガニやカタヤシなどをみる事ができました。

子どもたちは、「活動の中で、いろいろな水質の場所があると分かり、楽しい。きれいになってほしい。」と話していました。



挑戦！油ヶ淵クロスワード

油ヶ淵にちなんだクロスワードです。

回答は「mizu@pref.aichi.lg.jp」へ送ってください！

(件名は「ふちもに情報局73号 応募」としてください。)

正解者の中から抽選で5名様に、粗品をお送りします。

(〜12月25日(金))

1	ア		ウ	エ		
			2			カ
3						
				オ		
4	イ					
5						

<横のキー>

- 1 油ヶ淵流域の面積が一番大きい市。
- 2 力士が土俵上で行う動作。●●を踏む
- 3 このアプリによりメールや電話を使う機会が減りました。
- 4 この情報誌の初代マスコットキャラクター！
- 5 状態や具合のこと。●●●●が悪い。

<縦のキー>

- ア 県内唯一の天然湖沼。おなじみですね。
- イ 和紙で作られた美しい柄の紙。●●紙。
- ウ 大きい規模だと大災害を招きます。
- エ 縦のキーなのに矛盾しています。
- オ 油ヶ淵でピンクの卵を産み付ける外来種。通称ジャンボ●●●。
- カ 今が旬のニンジンが名産。●●●●美人。

二重の口の文字を並べ替えて
できる単語を答えてね♪

植物の名前だよ！



秋に撮影したもの。ゆっくり近づけば、近くまで寄ってもあまり飛ばないチョウです。オスの方が黄色が濃いです。

このコーナーでは、油ヶ淵に足を運べば簡単に見られるような、ポピュラーな生きものを取り上げます。
今回は油ヶ淵で見ることのできる黄色いチョウをご紹介します。

油ヶ淵のいきもの 第10回



No.12 キタキチヨウ

分類 むし



第1回で紹介したモンキチヨウとは別のチヨウで、こちらの方が一回り小さめ。名前のとおり黄色いはねを持っていて、はねの裏側に褐色の斑点が複数あり、夏に見られるものには表側に黒い縁取りの模様があります。昔は「キチヨウ」と呼ばれていましたが、最近の研究で本州にいるものと南西諸島にいるものは種類が違つことがわかり、本州のものは「キタキチヨウ」と呼ばれるようになりました。モンキチヨウとキタキチヨウが姿を現すのは春と秋とされているのですが、油ヶ淵では、春と夏にかけてはモンキチヨウを、秋はキタキチヨウをよく見かける気がします…気のせい？

★紹介した生き物は、Webサイト「油ヶ淵電子図書館」のコンテンツ「生きもの発見！図鑑」にも掲載しています。

浄化槽フォーラム

が開催されました



皆さんのご家庭の台所やお風呂場から出てくる「生活排水」は、どこに流れていきますか？下水道、それとも浄化槽？

浄化槽（合併処理浄化槽）は下水道と共に、生活排水処理という重要な役割を担っています。この浄化槽の普及促進、さらには浄化槽を通じた水環境の保全をテーマにした「浄化槽フォーラムin江南」（環境省等主催）が、11月21日（土）に江南市民文化会館で開催されました。

始めに、常葉大学の小川教授から、「社会情勢に対応した分散污水处理（浄化槽）の適用とその効果」と題した基調講演が行われ、今後の人口減少、少子化により、経済比較では下水道より浄化槽が有利になるといったお話がありました。



常葉大学 小川教授

続いて、愛知県環境部水地盤環境課の川村主幹、全国浄化槽推進市町村協議会の吉野事務局長、浄化槽システム協会の酒谷常務理事の3名が、それぞれの立場から浄化槽を取り巻く現状などについて発表しました。

最後に、「浄化槽を通じた水環境の保全の環（わ）を広げよう！」と題したパネルディスカッションが行われ、NPO法人エコネットくまがやの山田副代表理事、NPO法人藤前干

編集後記

このところ一気に冷え込みましたね。これからの季節はインフルエンザに要注意。私は小学生の頃、同じ年に2回もインフルエンザにかかりました…。それ以来、予防注射を打つようにしています。でも、一番の対策は手洗いなどの日々の予防ですね。（牧原）



パネルディスカッションの様子

潟を守る会の亀井理事長、漫画家の赤星たみこさん、NPO法人トンボと水辺環境研究所の川口理事長の4名から、浄化槽に対する思いや、浄化槽の普及による水環境の改善への期待について発表がありました。

この他、関係事業者・行政職員を対象とした研修会や、浄化槽のカットモデル、関連製品などの展示が行われました。



浄化槽カットモデルの展示

さて、冒頭の質問は、研修会で発表した豊田市役所の職員の方が調査した内容で、約3割の方が「わからない」と答えたとです。あなたはわかりますか？

油ヶ淵流域市民モニター
ふちもに情報局
vol. 73
平成27年11月発行

発行
愛知県環境部水地盤環境課
調整・生活排水グループ
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1-2
電話:052-954-6219
Mail:mizu@pref.aichi.lg.jp